齒科隣接領域

齒科臨牀ニ於ケル「ヒステリー」性患者

Hysterische Patienten in der zahnärztlichen Praxis.
(Von Dr. H. Gebhardt, in Halberstadt. Zahnärztliche Rundschau Nr. 9, 10, 1928.)

「ヒステリー」ハ「表象ニ基因スル肉體ノ病的變化」(メービウス)デアルトモ定義セラレ、「精神内ニ抑壓セラレタ情緒」ニ因テ起ル(フロイド)トモ言ハレ、「純機能的ニシテ而モ真正ナル病症」デアル(グリウーシワルド)トモ述ベラレテ居ルガ、精神病學者デナイ者ニハ「ヒステリー」トハ健常ナル精神ノ戲畫化セラレタモノデ、「ヒステリー」患者ハ欺カレタ精神ヲ有スル」(クローン)ト言ツタ方が判り易イ。「ヒステリー」患者ハ、彼ノ意識内ニ起ル事象ガ事實何等カノ末梢ノ刺戟ニヨル反應デアルカ否カヲ判斷スル能力ヲ有セヌ。

全體、「ヒステリー」ハ其例ニ乏シクナイト、症狀ノ多種多様なノト故ニ、世人ノ口ノ端ニ上ルコトハ多イガ、サテ其本體ヲ知ラレザルコトコレ程甚シイ病症ハ稀デアル。世ニハ「ヒステリー」ヲ虛病位ニ考ヘテ居ルモノサヘ有ルガ、「ヒステリー」ハ事實立派ナ神經竝ニ精神ノ病症デアツテ、遺傳的素因ノ上ニ發生スル表

象能力ノ病的變化デアル。コレガ誘因トシテハ、精神的又ハ肉體的ノ劇動ヲ主トスベキデアラウ。又、「ヒステリー」ナル病名ハ、希臘語ノ「ヒステラ」(子宮)カラ導カレタ名詞デアルガ、現今ノ醫學デハ男女兩性ノ間ニ患者ノ數ノ大差ヲ認メナイノミナラズ、佛蘭西ニ於テハ、男性患者ノ數ガヨリ大デアルトイフ。更ニ又、老幼ヲ問ハズ「ヒステリー」ハ發生シ得ルモノデアル。

サテ、「ヒステリー」患者ノ感覺ハ、時ニ鋭敏ニ失シ、時ニ魯鈍ニ失スル。前者ニ於テハ、外界カラノ刺戟ヲ過敏ニ感ズルガ故ニ、一見理由ノ無い愚痴ヲナラベ、事實ヲ誇張シ、時ニ無根ノ事實ヲ捏造スルガ如ク見エル場合ガ多イ。後者ニ於テハ、身體ノ一部ノ知覺ヲ失ヒ、コノ部分ノ皮膚ハ多クハ蒼白寒冷デアル。「ヒステリー」患者ノ知覺喪失ハ特異デアツテ、患者ハ確カニ感ジテ居ナガラ、彼ノ意識ガ之ヲ認メナイノデアル。運動神經ニモ麻痺ガ來ルガ、コノ麻痺シタ筋肉ハ電氣の刺戟ニハ鋭敏ニ反應スル。「ヒステリー」性痙攣ハ癲癇性痙攣ニ似テ居ルガ、癲癇ト異ル點ハ患者ノ決シテ自己ヲ損傷シナイコトデアル。瞳孔ハ光ニ反應シ、顔貌モ亦癲癇ニ於ケルモノト異ル。「ヒステリー」性痙攣ノ發作中ニ、強ク呼掛ケレバ患者ハ反應スル。即チ發作中ト雖モ患者ノ意識ハ消失シテ居ナイ。

上述ニ依テ「ヒステリー」ノ全般ガ判リ、從ツテ、口腔内ニ表ハ

レル病變ニシテ、「ヒステリー」ニ基因スルモノ、少クナイコトヲ知り得ル。余ハカノ持久麻醉ノ原因ヲ、神經内注射ヨリモ寧ロ「ヒステリー」ニ歸セシメントスルニ近イ。「ヒステリー」性患者ニ於テハ、齒科醫術の操作ガ、失明、失聽、聾啞ヲスラ幻出スルコトモアル。ケール、エロチツク、クノツヘ氏等ノ症例ノ教フルガ如ク「ノボカイン」ハ「ヒステリー」發作ヲ起ス。ト決メルコトモ早計ニ失スル。此際ノ症狀ハ「コカイン」中毒ニ類似スルト言ハレテ居ルケレドモ、余ハ單ニ精神的「シヨック」ニ過ギナイト考ヘル。精神的「シヨック」ハ甚シキ場合ハ虛脱、失神ヲ起ス。他ニ可能ナル説明方法ハ、習慣性ニ亢進シタ反應傾癖ニヨルモノトスルコトデアル。習慣性トイヘバ、屢々見受ケラレル嗅覺、味覺ノ異常ナ亢進モコレニ因ルモノデ、充填補綴等ノ後、時ニ數年ニ亙ツテ不快ナル味覺ヲ訴ヘテ來ル患者ガアルガ、コレモ亦「ヒステリー」ノ症候ノ一ツデアル。

「既往症ノ陳述ニ符合スル局所症狀ヲ全然發見シ得ザル時ノ如キ、鎮痛劑ノ無效ニ終リタル場合ノ如キ、必ズ思フ「ヒステリー」ニ致スベキデアアル」トヴィリガーノ確言シテ居ルノハ、余ノ全然同意スルトコロデアアル。「ヒステリー」性壓點ノ特徵ハ、此點ヲ壓スルコトニ依テ、發作ヲ誘起シ得ルト共ニ發作ヲ消散セシメ得ル點ニ在ル。又、佛國ノ研究者ニヨレバ、頭蓋骨型ト齒牙發育ノ特異

性トニ依テ「ヒステリー」性遺傳ヲ知ルコトガ出來ルトイフ。上來説ク所ノ諸項ヲ總合シテ茲ニ始メテ類症鑑別ガ確存シ得ル。故ニ余ハ廣ク一般醫學的既往症ノ採取ノ必要ヲ力説セントスルモノデアル。齒列ニ觸レタノミデ發スル齒軋リノ如キモ、欠伸、咳嗽、噎嚥等ノ頻發、理由ナキ笑、泣キ癖等ト併存スルトキハ、「ヒステリー」ヲ思ハシメルニ十分デアラウ。但シ夜間睡眠中齒軋ハ上ト同一視スルコトハ出來ナイ。「ヒステリー」球、「ヒステリー」性牙關緊急等ニモ注意スベキデアアル。齒科醫師ヲ歴訪シ、料金ヲ問合セナガラ、毫モ施術ヲ受ケナイコトモ「ヒステリー」性患者ノ特有性ノ一ツデアル。

齒科醫トシテ「ヒステリー」性患者ニ對スルニハ、躊躇逡巡スルコトナク、決然タル態度ヲ保持スベキデアアル。曖昧ナル場合ハ、無害ノ假構の處置ヲ施シ、徐ロニ該症ヲ分析シ以テ再來ヲ持ツベキデアアル。「ヒステリー」トイフ語ヲ患者ノ面前ニ於テ誤ツテモ口カラミラシテハナラナイノハ言フ迄モナイ。第三者ノ立會ノ下ニ催眠術ヲ施シ、又ハ暗示法ニヨツテ、患者ノ意志ヲ鞏固ナラシメ苦痛ヲ去ラシメルガ如キハ適切デアアル。全身及ビ局所麻醉ハ全然禁忌トスベキデアアル。